

令和5年9月14日

関係機関・団体の長 様

新潟県病虫害防除所長

令和5年度新潟県病虫害発生予察情報・注意報第1号
(ハスモンヨトウの多発生に注意) について (送付)

このことについて、別紙のとおり送付しますので、当該害虫による被害の拡大防止を図る観点から、生産者に対して適切な防除指導をお願いします。

新潟県病虫害防除所業務課

電 話 : 0258-35-0867

F A X : 0258-35-7445

U R L : <https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

令和 5 年度病虫害発生予察情報・注意報第 1 号
(ハスモンヨトウの多発生に注意)

令和 5 年 9 月 14 日
新潟県病虫害防除所

害 虫 名	ハスモンヨトウ
1 対象作物	野菜類、果樹類、花き類
2 発生地域	県内全域
3 発生程度	平年比多い

4 注意報の根拠

- (1) 各地の性フェロモントラップの誘殺数は、8 月第 3 半旬から急増し、9 月第 1 半旬以降はほとんどの調査地点で平年に比べて多くなった。特に 9 月第 2 半旬の誘殺数は五泉市一本杉で 1,831 頭、新潟市西蒲区松野尾で 755 頭となり、平年の 2～3 倍になっている（図 1）。
- (2) 現在、大豆、かき、なす、さといも、アブラナ科作物などで、若～中齢幼虫の食害による被害が増加している（図 2）。
- (3) 気象庁発表の向こう 1 か月予報では、気温が平年比高いと予報されており、加害に好適な条件が続くと予想される。

5 防除上の注意事項

(1) 耕種的防除、物理的防除

- ア 本種は広食性で雑草地にも生息しているので、ほ場周辺の雑草管理を徹底する。
- イ 葉裏をよく観察し、卵塊または若齢幼虫が密集しているのを見つけたら摘除して、ほ場外で適切に処分する。
- ウ 施設栽培では、開口部に目合い 4 mm 以下の防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。

(2) 化学的防除

- ア 老齢幼虫になると分散し急激に食害量が増大するうえ、薬剤が効きにくくなるので、体長 1 cm 以下の若～中齢幼虫のうちに薬剤防除する。
- イ 若齢幼虫は葉裏などに密集していることが多いので、薬液が葉裏や株元に十分届くよう丁寧に薬剤散布する。
- ウ 薬剤散布の際は、最新の農薬登録状況を確認し、農薬使用基準を遵守する。なお、収穫期が近い作物にあつては、使用時期（収穫前日数）に注意する。

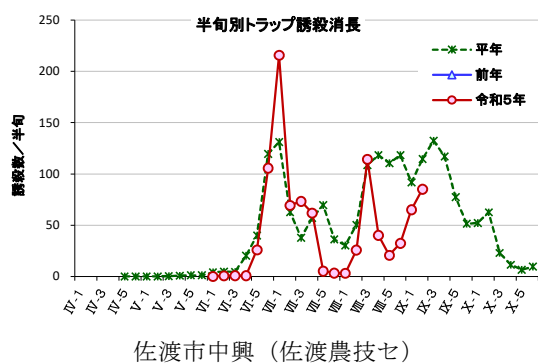
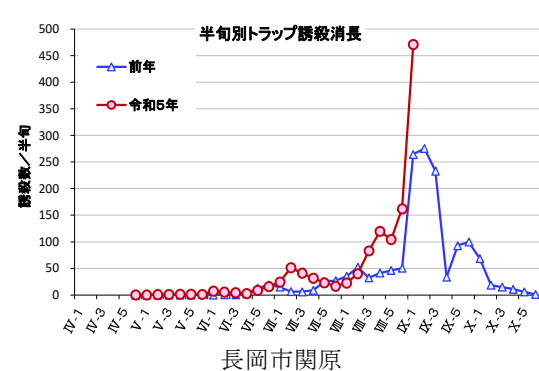
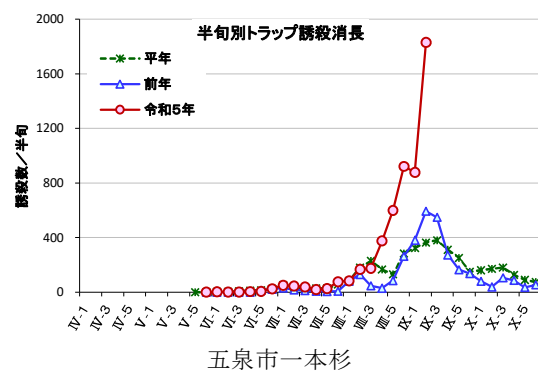
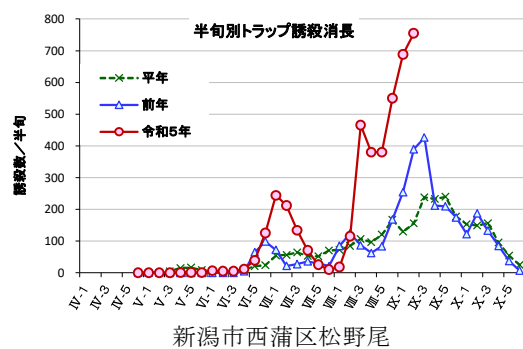
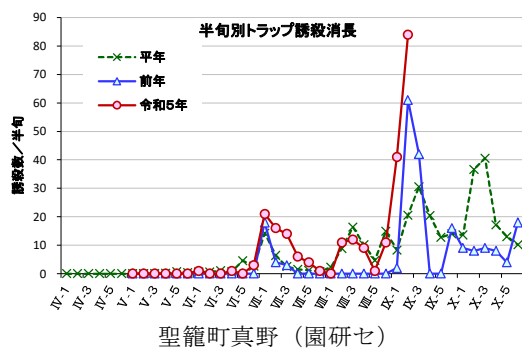


図1 各地の性フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数



図2 ハスモンヨトウの中齢幼虫